

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

1年3組 水田先生(国語)も研究授業から

9月30日(火)、2時間目に1年3組にて研究授業が行われました。

所用のため、授業開始後10分ほどたってからの参観となりましたが、どの子ども達もしっかりと学習の準備を整え、集中して先生の話をお聴くことができていました。また、友達の話を目、耳、心で聴くことの指導の継続も行われており、話を聴く子ども達の表情から学級の温かさを感じることができました。

教室背面には、1学期の行事をはじめとする学級の足跡の掲示がなされています。「みんなで力を合わせて成長していこう」という教師の温かなメッセージが伝わってきます。「一人一人の活躍が、学級全体の成長」、まさに本年度の重点目標である「自分大好き」「友達大好き」を目指した学級運営が行われています。

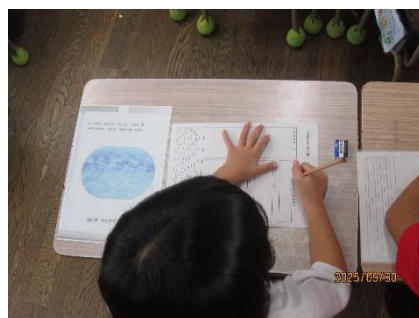
授業でまず大変感心したのが、1年生でありながら25分間という1時間の半分以上の時間を、教師は一切前に出ず、「書く時間」として子ども達に委ねたことです。普段の学習の積み上げも当然ありますが、授業の仕掛けとして大きく2つありました。

まず1つは「かくれんぼ図鑑」を作るという目的、そのために必要な「何を」「どこに」「どのように」という視点を明確に示すことができていたこと。2つ目は、「どの生き物」の図鑑を作るのかの「自己選択」が学習に位置づけられていたことです。自分で決めた目的に向かって、自分なりの方法で学習を進めることが学習への主体的な参加につながっていました。

学習の積み上げは、学習プリントへの記入にも表れていました。授業の最後の場面では、「振り返りを書きましょう」という短い指示で、子ども達がプリントに自分の言葉でプリントに書くことができていました。本校が目指す「自己有用感」「共感的な人間関係」を実感させるためには、振り返りは欠かすことができません。そのことをしっかりと毎日積み上げていくことで、1年生の確かな成長につなげていくことができています。

今後の検討事項としては「活動」が「めあて」になっていないかという点です。「活動」を達成するために、どのような「教科特有の見方・考え方」が必要となるのか、その目標を分析し、「めあて」をはじめとする授業に反映させることが、「振り返り」においてその有用性を実感させることにつながります。

「ぼくが考えた〇〇が役にたった」「みんなで考えた〇〇が～なときに役にたつ」。どの教科においても目指したい姿です。



物構えは低学年の基本



話の聴き方に学級の温かさを感じます



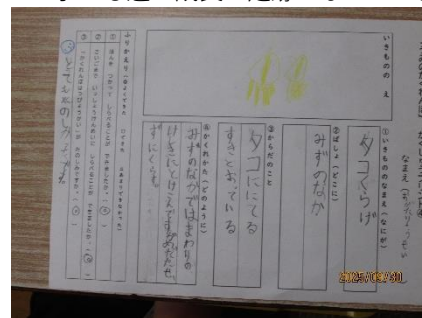
学級の足跡が
子ども達の成長の足跡になっています



自己選択が学習の
主体性につながっています



1年生にて25分、
授業の半分に子どもに委ねられています



振り返りも含めて
「書くこと」の日常化が行われています。